

巨大地震発生時の対応について

如水館中学高等学校
平成25年4月1日制定
平成26年9月1日改定

本校では、震度5弱以上の巨大地震が発生した時の対応について、以下のガイドラインを定めます。

1 登校前または在宅中に巨大地震が発生した場合

- ① 各家庭・地域の状況、交通機関の状況により、安全を最優先して行動してください。
- ② 震度5弱以上の地震、または緊急の災害が発生した場合は、学校の様子や対応を「携帯緊急サイト」、ホームページの「緊急情報」等でお知らせします。
- ③ 公共交通機関の運休、道路の通行止め等が発生している場合で、緊急サイトの情報が得られないときは、授業日であっても登校を控え、適切な避難行動をしてください。
- ④ 学校の授業時間以外で発生した巨大地震災害については、可能な限り早めに安否についての連絡を、学校代表メール（info@josuikan.ed.jp）もしくは学級担任への電話連絡等をお願いします。

2 登下校の途中に巨大地震が発生した場合

- ① 安全を最優先し、登校するか、家庭に帰るか、安全な場所に避難するかを判断してください。
- ② 可能な限り早めに安否についての連絡を、学校と保護者に連絡をしてください。
- ③ 生徒と保護者（ご家族）は、お互いの連絡方法や避難場所、合流方法等について、日頃から話し合っておいてください。

3 在校中に巨大地震が発生した場合

- ① 三原市に震度5弱以上の地震が発生した場合は、生徒をグラウンドまたは体育館等、安全な場所に避難させます。
- ② 避難が完了した後、余震の状況、公共交通機関の状況、家庭との連絡の状況により、下校させるかどうかを判断いたします。
- ③ ①により生徒の安全が確保できた時点で、公共交通機関の運休や主要道路に通行止めがない場合、安全を最優先し下校させることを原則とします。
- ④ 震度4以下の場合は、公共交通機関の運行状況等から判断し、通常通り授業を継続するか、緊急避難措置を講じるかを判断します。
- ⑤ 避難が完了した後、公共交通機関が運休となっている場合は、その状況により学校にとどまって安全を確保することを命じる場合があります。
- ⑥ バス乗車場所、迎えの自家用車に乗車する場所を、グラウンドもしくは前川寮付近の県道と指示する場合があります。携帯緊急情報サイト、正門付近の掲示にご注意ください。

◎巨大地震発生時の初期対応（第一次避難）について

（１）教室など、建物内において

- ① 揺れが継続している間は、ロッカーや割れ物の棚からはできるだけ離れる。
- ② 頭部を保護するため、机の下などに隠れる。
- ③ 揺れが続いているときにあわてて外に飛び出さないこと。
- ④ 揺れがおさまったら、授業担当者及び学級委員長は現在員を確認する。
- ⑤ 教室の窓は閉めるが、扉は開けたままにする。消灯及びコンセントを抜くこと。
- ⑥ 校内放送および教員の指示により避難を開始する。

（２）屋外において

- ① ブロック塀、看板、ガラス窓、屋根瓦が崩壊・落下するおそれのある場所から離れること。
- ② 落石やがけ崩れが起きそうな斜面から離れること。
- ③ 自転車や自動車の運転中はあわてずに確実に止まることを心がける。
- ④ 鉄道やバス乗車中は、車内のつり革や手すりにつかまること。

◎巨大地震発生時の避難（第二次避難）について

（１）火災が発生していないとき

- ① 器具の火元を確認し、元栓を締め、コンセントを抜くこと。
- ② 最寄りの階段を使って、誘導に従い落ち着いて避難すること。
- ③ 避難に介助が必要な人がいないか確認すること。
- ④ 避難完了と同時に点呼を行い、報告をすること。

（２）火災が発生しているとき

- ① 事務所に火災発生場所、状況を通報する（事務室から119番通報）。
- ② 初期消火可能なら、教員の指示により初期消火を行う。
- ③ 消防訓練に基づき、火災発生箇所を避けた経路で避難すること。
- ④ 窓は閉めるが、扉は開けたまま避難すること。
(地震に伴わない火災の場合は、窓も扉も閉めて避難すること。)
- ⑤ 誘導に従い、火災発生箇所を避けて、落ち着いて避難すること。
- ⑥ 避難に介助が必要な人がいないか確認すること。
- ⑦ 避難完了と同時に点呼を行い、報告をすること。

その他

家庭や地域などにおける防災について

普段から地域の防災訓練等に参加を心がけ、火災・津波・土砂災害発生時の避難経路等を確認しておいてください。飲料水や非常食の備蓄、懐中電灯やラジオ、ろうそくなどの準備、家屋の補強や家具を固定するなどの対策をしてください。

避難するときには、避難することに集中し、「近所が逃げていなくても、自分は逃げる」「『～だろう』ではなく『～かもしれない』」と考えて行動するように心がけてください。

高齢者や年少者に配慮し、状況により積極的に介助するようにしてください。